

三平の

やぶにらみ見聞録

〈その12〉



小関三平

(神戸女学院大学教授)

カメラ／池田年夫

# 「住吉川」の冬の陣

## 「六甲アイランド線」と神戸っ子

大阪の郊外に生れ、京都で学び、大阪と京都で働いたあげく、私は、余生(?)を神戸で過ごすことにした。理由はいろいろあるが、なによりまず、神戸は、大都市として珍らしくステキな「自然」に恵まれ、その風土が、ステキな「気質」を産み出しているからである。

神戸の女性にしても、まったくスバラシイ。そして、そのスバラシさは、山と海をバックにすればこそ、いっそう引き立つのである。横浜はよく知らないが、丘はあっても山はない。

だが、「川」となると、話は別である。世界の有名都市の多くは、大きな河川のほとりに発達した。けれども、



谷崎が一時住んだ倚松庵

わが神戸では、かならずしも、「川」のイメージが結びつかない。私たちは、セーヌもテムズも、ネバもブルタバも、いや、隅田川・淀川さえも持たない。ところが、ここに、矢継早に「都市計画」を打ち出す神戸市に対して、「川の景観保存」を訴える運動体が現われた。御存じの「住吉川の環境を守る会」である。

直接のきっかけは、六四年開業予定の「新交通六甲アイランド線」の高架方式であり、この「守る会」は、それが単に住吉川周辺の景観を損なうのみならず、「環境保全」の精神に背き、しかも、住民の合意と「アクセメント」を不当に軽視していると、きびしく批判しているのである。

これは、従来「行政主導型」でさまざまなプランを押し進めてきた神戸市が、初めて惹き起した、重大な意義申し立てであり、その質的な重さは、生っ粋の神戸っ子たる多くの学者たちが中心となり、しかも、神戸を愛する海外の著名なジャパノロジストたちの関心を集めた——ということにもある。

というのも、「エコロジー」に発したこの住民運動が、神戸をこよなく愛した、日本を代表する文豪の一人・谷崎潤一郎の旧邸をめぐる「文化財保護」という問題と、

重なり合っているからである。

問題提起は、「ドイツ伝承歌謡文学」を専攻する大阪工業大学助教授・中田作成氏によって、口火をつけられた。氏は、灘の浜辺で育ち、今は、谷崎がこよなく愛した住吉川のほとりのマンションに住んでおり、神戸の自然が破壊される過程を、身をもって目撃し体験してきた。「海だけでなく、とうとう川までも……」と、中田さんは絶句する。

彼は、新交通六甲アイランド高架線の計画を知って、付近のマンション居住者を中心として住民約三百人と共に起ち上がった。昨年の三月のことである。今や、同士は、その四倍一千二百人を数え、会報発行部数は千五百にもなる。

中田さんは、いかにも地味なテーマとコツコツ取り組



川沿いのこののどかな自然な風景の中にモノレールが通る



市への陳情をはじめ、反対運動の中心中田作成さん

さんと奥さんは、このためにワープロ機器まで買入れ、神戸の自然を愛する一念から、研究と私生活を敢えて犠牲にしてきた。

この慎重・綿密な学究を先頭とする住民運動の歩みは、昭和五九年一月二〇日に始まる略年表に要約されるが、その間の陳情・抗議・会談は、なんと五十回に近い。にもかかわらず、市と市議会の対応は、これまでのところ、いかにも冷やかかみえる。それなりの配慮と計画細部の修正の努力は、たしかにみとめられるが、結論は、「地元住民無視」に、ほぼ等しい。住民の合意なしに決めた「タイム・リミット」を押しつけるのである。

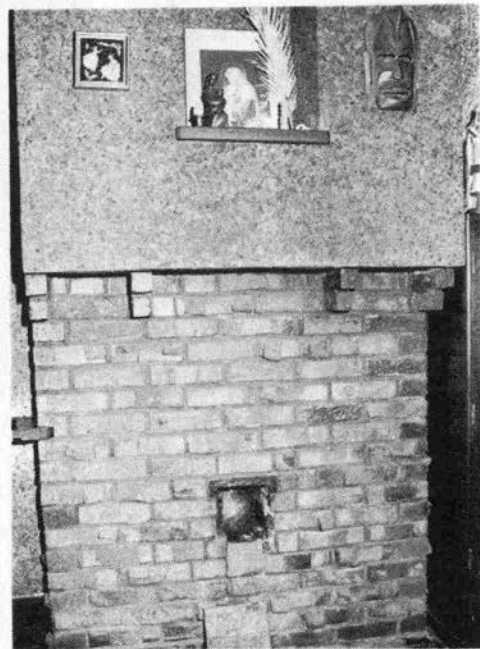
『住吉川環境を守る会』に、素早く呼応した、もう一つのグループがあった。それは「住吉川の桜を愛する会」である。「守る会」のリーダーがドイツ文学者なら、「愛する会」のリーダーは、三十代女性のイタリア文学者だった。大阪芸術大学の講師を勤め、大阪外国語大学・山手女子大学にも出講する武谷なおみさん（御主人は考古学者）である。彼女は、文字通りの「魚崎っ子」であり、したがって、幼ない頃から馴染んできた住吉川の

む、篤実な学究という印象の人である。彼が私たち取材班三人にそれぞれ下さった資料は、一八点・八二頁の膨大なものであり、そこには、新聞記事と市議会・市長からの回答書も含まれるが、コピーをつくるだけでも大変だったろう。いや、中田





海外の文化人の反対署名を集める武谷なおみさん（上）  
谷崎が使っていた暖炉（下）



景観が、橋桁十メートルもの高架鉄道によって破壊されることに、中田さんたち以上の悲しみと怒りを、感じたにちがいない。しかも、古代ローマ以来の「歴史遺産」を誇りとするイタリアの、それも、もつとも複雑な文化史と野性的な風土を持つ「シチリア」に、詳しいからでもある。

彼女は、およそ欧米では考えられない、文豪の旧寓居を平気で破壊する故郷・神戸市の暴挙と、欧・日の文化のギャップにショックを受け、深く悲しみ、怒ったことだろう。武谷さんは、イタリアの文化人たちに何通もの手紙を書き、『ジヤパン・タイムズ』に投稿し、海外八カ国の親日家に訴えた。すると、たちまち、「住吉川と文化財を守る」ことへの共感が、二一七名もの外国人から、寄せられたのである。

ドナルド・キーン氏は、達者な日本語でこう書いてきた。「奇蹟に残った文化財を破壊することは許しがたい行為だと存じます。」ハーバード大学のライシャワー日本学研究所長、ローマ大学教授・イタリアのオペラ歌手・イタリア文化省で遺跡保存を担当した元高級官僚からも、続々と便りが寄せられた。

が、それにもまして、武谷さんを感動させたのは、シチリアの高校生たち（学級）からのメッセージである。彼らは、日本の「科学技術の優位」に敬意を表した上で、「しかし、風景の美や歴史の遺産を消すようなことがあってはならないし、思い出を壊すべきではありません」と、「神戸市株式会社」のエコノミック・アニマルぶりに、鋭い警告を発しているのである。

注目すべきは、イタリアを代表する大新聞『ラ・スタンプ』が、八月一七日付の第二面・左下に、「モノレール、日本の偉大な作家の寓居跡を走る——死に頻する谷崎邸」と題する数十行の記事を、掲載したことである。「国際都市」神戸は、かくして、皮肉にも、みずから育くんだ国際通のアピールによって国際的な非難を招くことになった。いざれにせよ、「新交通六甲アイランド線」と「住吉川」は今や、思いもかけず、世界の注目を浴びているのである！

「原則として神戸市在住の文化人」を対象とした、中田さんらのアンケート集計によると、発送数三四〇に對して回答は八二（二四・一％）だが、「六甲アイランド線」への反対が五五％にものぼり、賛成はわずか五％、



谷崎が使っていたそのままの応接室（左）松子夫人の姉朝子さんからのお礼状（中）倚松庵を守る児山悠輔氏

条件付きの賛成さえ一八割にすぎない。しかも、この圧倒的な批判は、谷崎潤一郎の旧寓居が取り壊されると知れば、さらに倍して拡がるだろう。

谷崎は、川端康成・三島由起夫よりもはるかに、近代日本文学の耽美派を代表するにふさわしいし、同時に、「阪神間」と神戸を彼ほど愛した大作家は居ない。当然のことながら、日本全国の文学愛好者、とりわけ国文学者のあいだでは、神戸市の「文化行政」への疑惑が、急速に広まりつつある。

だが、もっと重大なのは、引越しまニアの谷崎が、七年（昭和一一・一八年）ものあいだ最愛の松子夫人と住み、「源氏物語」の名訳と代表作「細雪」を執筆した、名跡「倚松庵」と、その周辺に、「立ち退き」を迫られた何百人もの住民が、現に生活しているという、抜き差しならない日常的現実なのである。

ここで、クローズ・アップされるのが、「倚松庵」の所有者にして住人たる児山悠輔氏である。うっそうたる樹木に包まれたこの木造家は、氏の尊父・破魔吾氏（元大阪証券取引所理事長）が、谷崎の家主・後藤鞆雄氏から買い取ったもので、悠輔氏一家はここに、何十年も暮してきたのだった。この経緯と家屋の構造については、市居義彬氏の『谷崎潤一郎の阪神時代』（隆文社・昭和五八年）や、たつみ都志女史の「ここですやろ、谷崎はん」（広論社、昭和六〇年）に、詳述されている。

だれだって、突然、「お宅の門と応接間の半分は道路と高架になります」と宣告されたら、当惑し、激怒するだろう。

児山氏は、灘中から慶応大学へと進み、日立製作所の長老となった、温厚・端正な老紳士である。が、いかにも神戸育ちと見える。この老紳士は、「私はここを動きません。神戸市の態度は許せません」と、物静かに、しかも断乎として、一歩もゆずれぬ構えである。

高級住宅地のインテリ層と市政の対決——市が強行策を取れば、市史に汚点を残すことは、まず避けられまい。



■第10回神戸文学賞受賞作  
連載小説／4V

# おどん 海賊

塚田 照夫 絵／辻 司

岩吉の送りがすんで五日たった。浜次の手先の腫れが退いた。

その夜浜次は、それを待ちつけていたように動きだした。

まず浜へ行って、陸に引き上げてあるわが家の舟の胴間板を上げた。活け簀には溜まり水ほどの海水が残っていた。浜次は、活け簀の底から、岩吉が死ぬまで抱えていた『さわの金包』をつかみ出し、滴のしたたるのも構わずに懷にねじこんだ。たちまち下腹から股間までビシヨビシヨに濡れた。

家へ帰ると、懷の金包みを鳥屋の脇に置き、蓮子窓の下へ行って鋤を取った。窓の鴨居にかかったリブキ（背負い子）も外した。

そと、だが素速く鶏小屋の下の方櫃を掘り出した。蓋を開けて足もとの銀塊の包みの中に入れ、鶏糞のコピリついた藁に押しこんで丸めた。

それから、リブキを壁の破目板にウンと斜にして立てかけ、金櫃の菰包みを戴せて縄掛けした。

（さて）と両手を揉んで払った。骨の芯が少し痛んだ。

気がついて鶏小屋の戸を開け、小屋の屋根板の上の餌箱を箱ごと押し入れ、戸は開け放しにして鶏たちがいつでも外へ出られるようにした。

家の内へはいると、一息眠ろうと思い、納戸の中の薄い掛け蒲団を一枚だけ取りだして被り、畳の上にジカに横になった。

明朝は早発ちのつもりでいる。さわの寝ているところへ行く気である。

頭上の棚には、岩吉の骨壺のはいつた白木の箱が、ムキ出しのまま荷物のように置いてある。それが暗闇のなかに、灰白く浮かんで見える。遺牌はない。したがって戒名もない。

坊っさまのいぬ葬式で、屍体を野天の焼き穴で焼くとき、参列者のめいめい気ままに唱名や題目を唱えた。知っているお経のなん行かを誦する者もいた。

浜次は、岩吉が言っていた『南無阿弥陀仏』をなんどか言った。

（坊っさまでん、戒名でん、墓でん、なんでんでくるとばってんな。銭はいっぱいあるとじゃけん。ばってん、遣われんな。まだ遣わるっ身分になつたらんもんなあ）

六字の唱名の意味はわからなかったが、岩吉の言った言葉は、浜次の胸にしっかりと残っていた。

『おどんたちのごたる者ンでん、極楽に連れていてくれらすちゅうど』

それは、父の遺言のようであった。——  
眠くなってきた。浜次の股倉は、汐水でまだ濡れていた。

——少し寝過ごしたと思った。なるべく人に遇いたくなかった。

リブキを負って戸外に出た。向かいのヨシの家は、まだ雨戸を縋ってなかった。その隣りは雨戸があいて腰障子になっている。風雨の強い、土地の造りである。

その腰障子が開いた。お主婦のシノが水汲みらしく手桶をさげて出てきた。

「おっ、みやげの多かの、浜次どん」

シノは、浜次のリブキの荷を見て言った。

「喰いも申たい。いつとき向こうに居ろテ思うとるけん」

「早う帰って来なんせよ。おさわどんによろしゅうな」

「ああ、挨拶せんで行くばってん、みんなにもよろしゅうにな」

「よかよか、氣をつけてな」

「ああ」

これで部落落ン者への挨拶はすんだたい、と浜次は思った。

「重かごたるの」と、シノが言った。

「なアんの」

浜次は、荷を揺すりあげて、しっかりと歩いていった。

じつは喰い物は、麦七分に粟三分の残り飯を、赤子の頭ほどに握って、高菜の漬物で巻いのを一つ、包んで腰にブラ下げていただけである。ほかには何も喰う物は家に残っていないかった。

「よかたい。なんとかなろ」

浜次はひとりて言い、足を早めた。とにかく、さわが待っている。寂しく暗い山中の朽ち葉の床で、ひとりて待っている。

例の獣道のような径である。土の部分も苔や下草に覆われていて、叢の中の一筋の窪みが、わずかに径と知れるだけである。

浜次は、咽をゼイゼイいわせて喘ぎながら登った。どこかで生爪でも剥がしたのか、左足の二の指先に血が滲んでいた。

この径をさわは逃げ、岩吉は追った。さわは、貧乏から、頑固で気のまわる義父から、そして最後には、どう

した経緯からかさわは知らなかったが、禁を犯して大枚の銀を隠し、そのことを嫁の自分に知られるのを警戒していた義父と夫の怖ろしいやり口から逃げた。「三年奉公」の責め苦が、往く先に待っているのがわかっていて、逃げた。

（バカン、ことばして）

そう思いながら、浜次はさわが可哀そうでならない。義父岩吉はそのうえ狂ってさえたのだ。怖ろしくて、さわには耐えられなかっただろう。非道な欲にかられて身を狂わせた父もまたあわれだと思う。岩吉とさわ二人の哀れを身一つに集めて、これから苦しまなければならぬ自分のことは、浜次は考えない。

さわの枯れ葉の床は、野犬に喰いあらされてもいなかった。野犬も、もっと里近いところにいて、峠に近いこの辺にはいないのかもしなかった。

「可哀そうにな、ひとりで寂しかったろう？ 山ン中やもンな」

浜次は、背な荷を、さわの枕もとにおろした。

「寒うはなかつたな、さわ。今夜は、おどんもここに寝るけん。なに、飯は持って来とるけん。さわも喰うな？ 腹も減つとろけん。半分コして喰うたい。太か握り飯やぞ。さわの作ってくれよつたとより、倍も三倍も太かぞ」

藪の道の天井は、いくらか梢の重なりが疎で、光る空も覗けたし、少しは朝陽もこぼれてきたが、径から少し外れただけなのに、ここは、まるで薄闇のなかだった。

木洩れ日も降ってこない。かわりに、山蛭がボタボタ落ちてきた。浜次は、土ごと枯れ葉をつかんで、それで首筋や腹ら脛の蛭を押しつけてむしり取り、なん匹も捨てた。蛭をむしり取ったあとには血が吹き出た。

浜次は、さわの顔の上の朽ち葉を払いのけた。蒼靨いさわの顔があらわれた。その頬を浜次はそつと撫でた。

さわの頬の皮膚が剥けて、ベトツと指先に貼りついた。浜次は、どこからくるともわからない仄明かりに、その

指をかざして見た。

「ああ、さわも、もう帰るといふ。帰ってだんだん土になるといふ。しかたなかもん」

浜次は、ベトつく指先を、胸のあたりで押し拭いた。

「よかたい。土になれ。そして、赤か椿花になれ。さわの上に、赤か椿花のいっばい散って綺麗かぞ。寂しゅうもなかぞ。美しかろな。そんときア、おどんも見にくるけん。さわん椿に会いにくるけん」

浜次は、さわのムキ出しになった顔を埋めどした。

「あしたは『倭寇ン城』に往てな、こん唐人どんの金箱ば隠そ思うとたい。罪つくりの金箱じゃけん、だアれにも気づかれんとこに隠そ思うとる。どこに隠したか、さわにアこそつと教ゆるけん。さわも、そこに連れていくたい。あしたのうちに連れにくるたい。今夜も、そしてン先も、そしてら、ずうつとさわといっしょに暮らさるつたい。そげんしゅうで、な」

浜次の言うことは、前後平仄が合つてない。が、そんなことは、いまの浜次にはかわりのないことだった。浜次の心は静かで、安らぎに充ちていた。さわの屍体の腐臭さえ気にならなかつた。

この日ごろにないことだった。浜次は満ちたりで俸せだった。子供に添い寝する母親のように、さわの体のなりに横になって、その朽ち葉の蒲団を、上から、寝かしつけるようにそつと叩きつづけた。

# 七

森の木の下は、ゆっくりとした登りになっている。あるいていくにつれて、頭上で昆虫の肢脈のように縦横に枝葉を張った両側の樹々のあいだが、少しずつまばらになって、明かるさを増した。

とつぜん、左手の樹林が視界から沈み、眼路いっばいに海が開いた。

浜次は、いつとき眼を細めた。風が汐の香をはこんでくる。二、三ど深い息を吸った。

陽は、すっかり東の水平線をはなれて、天も地も海も、すきまもなく光を浴びて静まっている。

右手はあいもかわらぬ原生林の波で、しだいにむこうがわへ、さわの郷里の下山の方へ、ひろがり落ちている。山崎道は、その密林のへりに沿ってくだり、すぐ眼のまえの番所山の裾で、ふたたび厚い森のなかへはいって降りていく。

浜次は、いつとき立ちどまって、見えるかぎりの風光に瞳をそそいだ。金櫃を積んだリブキの肩当てが、軀を押しつぶしそうだ。荷を揺すって、肩当ての部分、すこしずらした。

その浜次の足許から、山崎道とふた股になって、ガレ場のなかを、左の眼の下、起伏と凹凸のはげしい岩山の方へ降りている小径がある。

浜次は、その小径のゆくえを睡でたどった。海から遠眼に眺めたことはあるが、むろん来たことはない。ここが目的の『倭寇ン城』の降り口だと、すぐにわかった。「ここか」

浜次に多少の感動がある。これからどうなるか、そんなことは知っちゃいない。たださわに、ここへ連れてくると約束したのを憶えていた。

浜次の眼下は、山崎の突端が陥没して岩盤がムキだしになったものか、それとも、太古からの熔岩流が風浪に侵蝕されてできたものか、突元とした大小の岩山のつらなりであった。幅こそ狭いが、奥へは何千坪あろうか、浜次には見当もつかなかった。

海から眺めたときには、とどころに節理のある屏風岩が切り立っていて、岩裾には、狭い砂州や八幡瀬のつづきの岩礁がつづいていた。

浜次は、岩の道を降りはじめた。べつに不安は感じなかった。

道と言えるほどのものではない。通れる、だけだ。よろけては、なんども手近な岩根につかまりながら、逼うようにして降りた。負ったリブキの重さが倍になった。



フト気がついて、見ると、足場には自然のままでない、  
人手の加わった個所があちこち眼についた。

「へえ、やつぱりか」

浜次は感心した。

このへんの漁師たちは、沖の夜釣りのときに、倭寇ン  
城に灯りがチラチラすることがあるのを、たいてい見て  
いる。

「久しぶりに今夜は海賊の来とるど」

漁師たちは、そう囁き合って、いつもより静かに仕事



をした。

浜次にも一度経験がある。倭寇ン城は、まるきり人跡  
杜絶えているのではなかった。

行くにつれて、通路は、いくつにも分かれるようにな  
った。

浜次は、知ってるわけではないので、つど勝手な方向  
をえらんですすんだ。とにかく、リブキの荷をおろさな  
ければならない。ぜったいに大丈夫な金箱の隠し場所を  
さがし出さなければならない。たまにでも、人の出入り  
はあるのだから、なおさら秘密をしまうこ  
とのできるところを見つければならな  
い。先のことは、それから考えることにし  
ている。

ときどき、岩の壁のあいだから海が見え  
た。眼ふさぎになっている岩壁の襞には、  
あきらかに人が挟りぬいたと知れる覗き穴  
があった。遠見につかつたのだろう。倭寇  
ン城は、小さな城塞になっていた。

浜次は、また感心した。元気が出てきた。  
唐人の金箱を守って、倭寇ン城にとじこも  
る気分になった。

島びとは、昔からの言い伝えで、いまの  
領主五島氏の祖先・宇久氏のころに、倭寇  
ン城にたてこもった海賊の群れを攻めて、  
なんどもいくさがあつたと聞いている。む  
ろん、浜次も、そうだ。

この宇久氏というのは、肥前松浦黨のわ  
かれで、もともと海賊集団だったから、そ  
の後も、部下三千と言われた倭寇の棟領・  
五峰王直と宜しみを通じていた。だから、  
言い伝えが事実だとしたら、この倭寇ン城  
にたてこもった海賊は、王直の命令にした  
がわれないはず、海賊だったのだろう。王直  
の頼みで、宇久氏が代理戦争をしかけたの



だらうか。中国は明の時代のことだったという。浜次などの知らないころのことだ。

岩底の下に、洞窟があったり、踊り場みたいなところがあったりした。どこからでも、どっちへでも行けるようになっているらしかった。どこかに、海への出入り口もあるにちがいないかった。

いたるところに、煮炊きや、焚き火の跡があり、人の気配の残った何かの屑や、かけらがあつた。どれも、近ごろのものであつた。みんな金箱の隠し場所には適当でないと思つた。どこも、人臭いのである。

奥へ、すすんだ。ほとんど、番所山のま下へ来た。番所山は、倭寇の棟領王直とは別に関係はない。ずうつとあと、海外との交易が制限されてから、見張り番所が置かれた山だ。

浜次が岩のすきまから窺いてみると、番所山は額のうえにあつた。山の番所は今は無人で、外国船の出入りのときだけ、番士が、富江から下山へ船で渡り、そこから登り降りする。

昔は、この番所山が、倭寇之城の見張りも兼ねていたか知れぬという想いなしは、いまでもある。それで、焚き火のあとなど、外から、もちろん番所山からも、見えにくい岩底の奥や洞の中にしかない。岩天井のない場所では火を焚いてない。言い伝えは、すなおに、そして周到に、うけつがれているのである。

「こら危かばい」

浜次は、いよいよ困つた。腹も減つてきた。麦と粟の大きな握り飯は、もうない。

浜次の眼の高さの岩壁から、清水が湧き出ていた。その溜め壺が、蹣跚ふうくに人力で掘り窪めてある。

そこから溢れた水は、合つたり別れたりして、筋を引きながらチロチロ流れていく。水は、これもひと眼で人工と知れる岩の段だんに沿って落ちていた。いづれ段んは、岩壁を抜けて、海辺へ抜けているのだらう。

浜次の立っているところは、和寇之城の通行の要路で、

水場で、おまけに番所のま下にあたっているのだ。

「こら、いよいよいかんぞ」

浜次は、途方に暮れた。リブキの重みが、肩の肉を喰い破りそうだ。

(いそいで錢ンば隠して、さわばつれにいかんば。さびしがつとろけんな)

浜次は、清水を掬つて飲み、よくわからないが、もと来たと思える方へ引きかえしはじめた。

また岩天井が切れたり、つづいたりした。光と陰の斑を、いままでもなんどか出たりはいつたりしたはずなのに、気にならなかつた。それが、いまは、輝いた日の光は瞳に突き刺さるようだった。浜次は、夜行性の動物に似てきた。

「だれじやい。だれか居るのかの？」

ちょうど浜次が、洞になったところを、手さぐりして行くときだった。声が、天井から壁から、寺の梵鐘を撞いたようにこだまして、いつとき余韻が和寇之城にゆうに鳴り響いた。

浜次は、ギョツとなつて立ちすくんだ。

「海賊ばい、こらア」

もうダメだと思つた。ついさっき、少し気分が昂揚して、唐人の金箱を守つて、ここに立て籠もる元氣が出たのが、いちどに萎えた。

(さわよ、もう迎えにいかんぞとなつたばい)

腰の力が抜けた。脚を踏んぱり、リブキを岩壁にもたせて、やつとズリ落ちそうになるのをこらえた。

フト見ると、小暗い洞の岩の裂けめが、縦に黒い口を開けて、灰色の世界の黒い縞になっているのが、すぐ脇に見えた。

裂けた岩の底がどうなっているのか、深いのか、それとも浅いのか、リブキの筵包みの荷を、じゅうぶんに隠せるものかどうか、見当はつかなかった。が、グズグズしている場合ではなかつた。

とつさに浜次は、リブキの肩掛けを右肩から左肩へ順

に外し、背中をのけぞらせて藪包みを岩壁に押しつけてズラしながら、リブキの荷をおろした。リブキは、岩にたてかけた具合になった。浜次は、それを横倒しに寝かせ、こんどは、リブキの二本の足をもちあげて逆さにし、黒い縦穴の中へ倒しこんだ。

浜次にしては、素速い行動だったし、うまい着想だった。

リブキの落ちる重い響きが、すぐはねかえってきたから、穴はさして深くはないのがわかった。引きあげるときのことを考えて、浜次は安心した。肚をきめてふりかえった。

なんと、眼と鼻の先に、僧形の、大入道——と、浜次には見えた——がヌーと立っていた。

## 八

大入道の海賊では、かないっこない。

浜次は、いそいでひざまずいて、

「命ばかりはお助けを」

と、両手を合わせた。

頭を丸め、黒い僧衣をまとった大男は、クスツと笑った。眉太く、顴骨の張ったいかつい顔が、笑うとひどくお人好しに見えた。手に、飯でも喰っていたのか、茶碗と箸を持ったままだった。浜次には四十がらみに見えた。

「命ばかりは、か。命を助けてもらいたいときには、そういうふうに言うものだと、誰に教わったな？」

「ああ？」

浜次には、僧形の男のいう意味がわからない。

「どうせ、相対死に（心中）の片割れか、捕まれば首が飛ぶようなことをやらかして、ここへ逃げ込んだんじやろう。命は惜しいわけだ。それで、お助けを、ときたな。そうだろう」

似たようなモンじゃが、すこし違うな、と浜次は思った。そんなことを考えるだけ、気持ちに余裕がでてきている。

「お上人様」

浜次は気やすく呼んだ。気やすく呼んでよい相手だと判断したし、そうすることで急場がしのげそうだと、計算している。動物の嗅覚みたいなものがはたらいていた。

「お上人さま。おどんの家内の、コン先ン山ン中で寝とりますと。お経ばあげてくださりませ」

立ちながら、雑炊らしいものを齧っていた大坊主は、それを聞くとヒクツと喉を詰まらせて、あわてて呑みこんだ。

「ああ？ 寝とる？ 寝とる者にお経をか？」

「へえ」

「殺したのか」

「いえ」

（殺したのは親父じゃとは、言われんもンな）

それを言えば、唐人の金箱のことまで説明しなければならなくなる気がした。金箱の秘密は守らなければならぬ。だいいち、さつき浜次がリブキに積んだ金箱の藪を、岩穴にほうりこんだときに、この海賊のお上人が、見ていたかどうかさえ心配になっている。

「ほう、相対死にじやないのか」

僧形の男は、浜次を、相対死にの生き残りだと決めたいたらしい。

「へえ」と、浜次は混沌とした顔つきになった。

「女房と相対死にじやおかしいか。しかし、ないわけでもないな」

「へえ」

と、浜次は、また言った。

「だめでつしよか、お経は？」

「お経か、困ったな。——実はな、わしは坊主じやないんだ」

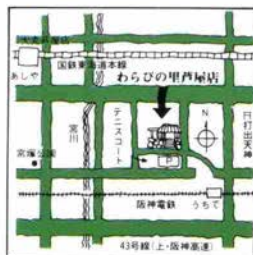
と、坊主が言った。

（そんなら、やっぱり本職の海賊ばい）と、浜次は、また怖ろしくなった。





晩  
秋  
を  
盛  
る



京懐石 5,000円より  
松花堂 3,500円(午後2時迄)

京料理  
わらびの里  
■ 芦屋店

芦屋 打出小楠町30

TEL (0797) 235666

営業時間 午前11時～午後10時(駐車場有り)

京都本店 京都・山科区小山中島町28

TEL (075) 5910911

新宿店 東京・新宿区西新宿2の4の1

TEL (03) 3498789

スポーツ・フィーリングで  
駆け抜ける!!



ローラースケート教室  
レディース・ジュニア生徒募集中

## ＜レディース＞ストレッチ運動付基本コース

- 日時 金曜日  
昼の部14:00～15:30  
夜の部18:30～20:00

- 費用 ￥3,000 (5回コース)

〈ジュニア〉基本コース、小学生男、女

- 日時 日曜日 9:00～10:00  
●費用 ￥2,500 (5回コース)

※お問い合わせは

六甲体育館 ☎ (078) 841 - 1084まで



日本ローラースケート連盟公認

すべることはスポーツなんだ

# Roller Rokko

神戸市灘区新在家北町2丁目1-1 ☎ (078) 841-1088

營業時間 ● AM10:00～PM10:00

貸靴料 ● 200円

滑走料●一般学生¥1,000 中・高生¥800

小学生 ¥ 600

国鉄六甲道南へ徒歩5分  
国道43号線、小泉製麻北  
●駐車場100台収容





# 神戸のうまいもとドリンキング

## ★日本料理

讃岐名代うどん あこや亭  
市引店 ☎231-6300 三宮店 ☎332-3003 住吉店 ☎453-5737  
兵庫駅前店 ☎575-5306 ボーアイ店 ☎303-1188  
ボーアイプラザ店 ☎303-3232

北海道郷土料理 蝦夷 夷  
中央区中山手通 1-4-13 ☎331-7770  
東門前東門会館ビル1階

和食 食くれな  
三宮生田新道浜側中央KCBビル2F ☎331-0494

料亭 布引大し  
中央区龍内町 4-8-19 ☎221-1945

たこ焼 たちばな  
三宮センター街(旧柳館) ☎331-0672

民芸食 五事  
元町3丁目目黒側 ☎391-3156

炭焼 五トリドリ  
中央区北長狭通 2-5-1  
タイシンサンセットビル2F ☎391-3028

そば処 木曾路  
フラワーロード市役所前KビルB1F ☎231-1295

どじょう 吾作  
中央区元町通 2-7-20 ☎321-0539

鍋・しゃぶ 三十三間堂  
神戸ワシントンホテル2F ☎331-6111

割烹 銀座  
神戸ワシントンホテル2F ☎331-6111

手打そば 庵  
市役所花時計北・ハニービルB1 ☎331-0260

季節茶屋 一輪房  
中央区三宮町 1-8-1 ☎331-2280  
さんプラザB1F

天ぷら 天ふじ  
中央区下山手通 2-11-24 ☎392-3630  
大倉ビル1F

SAKE & KAISEKI 喜兵衛  
中央区山本通 2-1-1 ☎242-5411  
コーナーハウス2階

懐石料理 馳走  
中央区山本通 4-26 ☎222-6022

郷土料理 千石船  
きんちゃん ☎391-4875 山手店 ☎391-9314

活伊勢海老料理 中納言  
神戸プラザホテル ☎331-7918 元町東店 ☎392-1685

懐石料理 楽珍  
阪急西口店/阪急三宮西口北レイン・プラザ3-4F ☎321-5200/0  
宴会・会場/神戸三宮生田橋 西村ビル3-4F ☎332-1717

焼料理 青柳  
中央区元町通 3-63 ☎331-2292

## ★各国料理

レストラン やまと  
中央区生田町 1-4-20 ☎242-2020/0

レストラン 鹿鹿 皮くあらかわ  
中央区中山手通 2-15-8 ☎221-8547-231-3315

ステーキハウス グリル青山  
中央区下山手通 2-14-5 (トアロード) ☎391-4858

スカンディナヴィア料理 ゴックスタッド  
と世界の民族音楽の店  
中央区山本通 3-1-2 回教寺院前 ☎242-0131

ステーキラウンジ 果林  
神戸プラザホテル2F (元町駅南) ☎331-4558

すていきハウス 長崎  
神戸市中央区布引町 2-3-16 ☎221-1086

ステーキ 花  
中央区布引町 4-2-7 神戸花ホテルB1 ☎221-1087

メキシコ料理 ティファナーナ  
中央区中山手通 1-21-13  
パールコーポラスビル1F ☎242-0043

フランス料理 ビストロドゥリオン  
中央区山本通 2-13-6 ☎221-2727

レストラン 麻布キャンティ  
中央区北野町 4-1-12 異人館倶楽部 ☎222-5380

ポリネシア料理 フィッシャーメンズボート  
海 焼 神戸港第4突堤ボートターミナル ☎331-0301

シーフードバー ムーニークルーズ  
三宮・生田橋 ☎331-8980

喫茶・レストラン カフェパウリスタ  
三宮・トアロード(パウリスタビルB1) ☎391-0061

ステーキハウス れんが亭  
中央区下山手通 2-5-5 ☎331-7168

BARBECUE & STEAK 六段  
中央区元町通 3-8-4 ☎331-2108

フランス料理と神戸ビーフ レストランフック  
中央区栄町通 2-9-11 ☎321-3453  
321-3207, 332-4129

フランス料理 グラシアニ  
北野異人館通りローズガーデン山側 ☎242-0597

ドイツレストラン ハイデルベルグ  
中央区山本通 2-8-15 ☎222-1424  
ローズガーデン2F

ドイツワイン・コーヒー プローテ・ローゼ  
中央区北野町 4-9-14 ☎222-3200

韓国宮中料理 鳳仙  
中央区北長狭通 1-6-10 ニューキャスビル6F ☎391-2147

スペイン料理 エル・ソル  
神戸市役所前・フラワーロードビル1F 東側 ☎232-3636

シルクロード料理 ぶはら  
スパイスレストラン  
三宮町 2-3-9 タキビル2F ☎331-1734

神戸ビーフ登録指定店 和黒くわこく  
三宮肉店連合会 中央区中山手通 1-24-1 ☎222-0678  
ビルサイドテラス1F

指定店 スコッチ&ローストビーフ ガスライト  
神戸ワシントンホテル9F ☎331-6111

フラメンコとスペイン料理 エル・パンチョキタノ  
中央区北野町 3-2-4 ☎241-1344  
アニルド・マンション1F

中国料理 萬壽殿  
中央区中山手 2-20-4 ☎231-4531

フランス料理 ルー・サロメ  
中央区中山手通 2-3-7 ☎392-1251  
第2穴門ビル1F

北イタリア料理 ベルゲン  
中央区山本通 2-3-2 ☎241-6952

SAPPORO BEER RESTAURANT ニュームンヘン神戸大使館  
三宮生田ロード ☎391-3656

ステーキハウス 伊藤  
中央区御幸通 7-1-20 大信ビル8F ☎232-3031

炭焼ステーキ フラシス料理 GOONY KITANO (グーニ)  
中央区北野町 4丁目 ☎242-2562

神戸風レストラン 能芭亭  
中央区北野町 2丁目 1-10 ☎291-0661

フランス料理 シャンテクレール  
三宮ターミナルホテル4F ☎232-1682

フランス料理 トウールドル  
中央区諏訪山公園側貸店 ☎241-0168

ステーキ&ドリンクス 神戸館  
中央区下山手通 2-2-9 ☎321-2955  
アマツビル1F

広東料理 神戸元町別館牡丹園  
元町通1丁目協和銀行北側小路西入る ☎331-5790・6611

レストラン ラ・ターブル  
中央区山本通 3丁目3番8号 (パールビルB1) ☎241-3170

海老料理 伊勢エビ屋  
中央区北野町 4-6-8 ☎222-0766

## ★喫茶

珈琲館 たちばな  
中央区元町通 3-9-2 ☎391-1051

サロン・ティ カレット  
元町一番街 ☎321-1739

カフェ ドラセール  
新聞会館1F ☎221-8155

喫茶 ガーデニア  
中央区東町113-1 大神ビル1F ☎321-5114

喫茶 ガーデニア  
中央区三宮町 3-8 大和ビル ☎392-4004

IE CAFE ガレ  
中央区山本通 2-3-14 ☎242-7144

宮水のコーヒー にしむら珈琲店  
中山手・中央区中山手通 1-26-3 ☎221-1872-231-9524

センター街店・中央区三宮町10-27 ☎391-0669  
北野店・山本通 2-1-20 ☎242-2467  
(会 員 制) 3F事務所 ☎242-1880  
阪急・三宮東口山側 ☎332-5727

珈琲 モーツアルト  
中央区山本通 2-6-11 ☎241-3961  
ブランドマンション1F

珈琲 庵  
中央区三宮町 2-9-6 (トアロード) ☎391-1589

喫茶 館 英屋  
神戸国際会館隣側 ☎251-4562

喫茶 館 葡萄屋  
三宮センター街3丁目 ☎391-9006

喫茶 館 仏蘭西屋  
三宮・フラワーロード(神戸市役所前) ☎232-4643

デザート喫茶 ぶどうの木  
三宮・フラワーロード(神戸市役所前) ☎251-3231

ウィーン菓子 モーツアルト三宮  
中央区磯上通 8-1-29 ☎251-3816  
カサベラビル1F

ウィーン菓子 モーツアルト元町  
中央区三宮町 3-1-3 ☎332-0886  
神戸大丸山向い

茶房 ナイル  
中央区下山手通 6丁目2-7 ☎341-7376

喫茶 モンブラン  
フラワーロード市役所前Kビル1F ☎231-3605

コーヒーラウンジ カフェ・ド・パリ  
神戸ワシントンホテル2F ☎331-6111

TEA ROOM & LITTLE SHOP ファミリア北野坂ハウス  
中央区北野町 2-8 ☎222-3535

純喫茶 元町サントス  
中央区元町通 2-3-12 (元町通1番街浜側) ☎331-1079

コーヒーラウンジ City of City  
中央区三宮町 3-9-1 ☎331-1117

ティ&スナック エポック  
中央区元町通 3-8-8 (浜側) ☎331-3694

喫茶 テルミーニ  
中央区国鉄元町駅構内 ☎332-1682

炭火焙煎珈琲 珈琲倶楽部  
神戸市中央区北長狭通 1-10-6 (生田橋) ☎332-2016  
ムーライトビル1F

炭火焙煎珈琲 萩原珈琲店  
神戸市中央区中山手通 2-21-3 ☎222-1457

Salon & Cafe BLUE MOUNTAIN  
神戸市東区八幡町 4-6-16 (阪急六甲駅下車南口西南約3分)

TEA LOUNGE T/O/A  
神戸市中央区下山手通 3-1-15 ☎331-4412

フルーフショップ ベニマン  
フルーフラワー  
神戸市中央区北長狭通 4丁目3番24号 ☎331-8584

カフェラウンジ キャラット  
中央北長狭通 1-2-6 白蘭ビル ☎331-5141

## ★CLUB

c l u b 飛鳥  
中央区中山手通 1-2-6 ☎331-7627

c l u b 小万  
中央区東門前中島ビル3F ☎391-0638・4386

Member's Lounge 異人坂  
中央区北野町 2-9-22 (三本松不動火) ☎222-2001

クラブ 千  
中央区下山手通 2-12-6 ☎391-1077

c l u b なぎさ  
中央区北長狭通 2-11-2 ☎331-8626

クラブ ぶん  
中央区中山手通 1-3-1 ☎331-2854

c l u b B A R Moon Light  
三宮・生田橋Club ☎331-0157 / Bar ☎331-9554

c l u b コトブキ  
中央区三宮本通り ☎331-1875

## ★STAND & SNACK

ズナック CÉLINE  
中央区北長狭通 2-5-1 タイシンサンセットビル5F ☎332-6020

レストランBAR 薔薇屋  
中央区北長狭通 5-5-22 ☎351-4311

サロシアルパトロ  
中央区中山手通 1-22-10 ☎231-3300  
大和ナイトプラザ2F

ブチヤンソン エトワ  
「音楽の家」  
中央区三宮町 3-8-12 ☎332-1755  
神戸トアロード三宮センター街西入口1F スカイ・アビル3F

ズナック 雅子  
神戸市中央区北長狭通 1-5-9 KCBビル3F ☎332-0051

Theater pub トム・キャンティ  
中央区下山手通 2-8-2 ☎331-2122  
神戸ワシントンビル1F

スタンド グラムール  
生田橋岸ビル地所 ☎331-4637

サロシ 神戸時代  
中央区中山手通 1-23-10 ☎242-3567  
モンシヤットウコトアビル

カクテルラウンジ サヴォイ  
高梁山側 テキの店 ☎331-2615

ミュージック サントノール  
ラウンジ  
トアロード店 中央区下山手通 2-5-6 ☎291-3822  
北野店 中央区中山手通 1-22-10 大和ナイトプラザ6F ☎221-3886

スタンド 千里  
中央区下山手通 2-11-1 ☎331-4730  
K.S.Mビル1F

素舌 洞でっさん  
中央区北長狭通 1-5-12 ☎331-6778

S T A N D マッシュケナダ  
中央区中山手通 1-4-6 ☎331-5587  
ユーベルビル4F

Adult Disco セキーナ  
中央区加納町4丁目7-11 / 北野坂ビル8F ☎332-0666

末広光夫のミュージックサロン ティファニー  
中央区中山手通 1-21-13 ☎241-1771

Wine and Something 珍地理屋  
中央区中山手通 1-22-10 ☎242-0288  
大和ナイトプラザ1F

レジャービル 西村ビル  
中央区北長狭通 2-12-10 (生田橋) スーパーステーション  
ランドハウス45rpm 虎造坊 楽珍 エスカイクラブ

スタンド かてな  
中央区中山手通 1-7-10 英健ビル1F ☎331-1316

スナック アダルト  
中央区北長狭通 1-20-2 筑原ビル5F ☎321-5885

CAFE RESTAURANT & BAR MARLENE  
中央区北長狭通 1-2-13 ニューリッパビル5F ☎331-9050

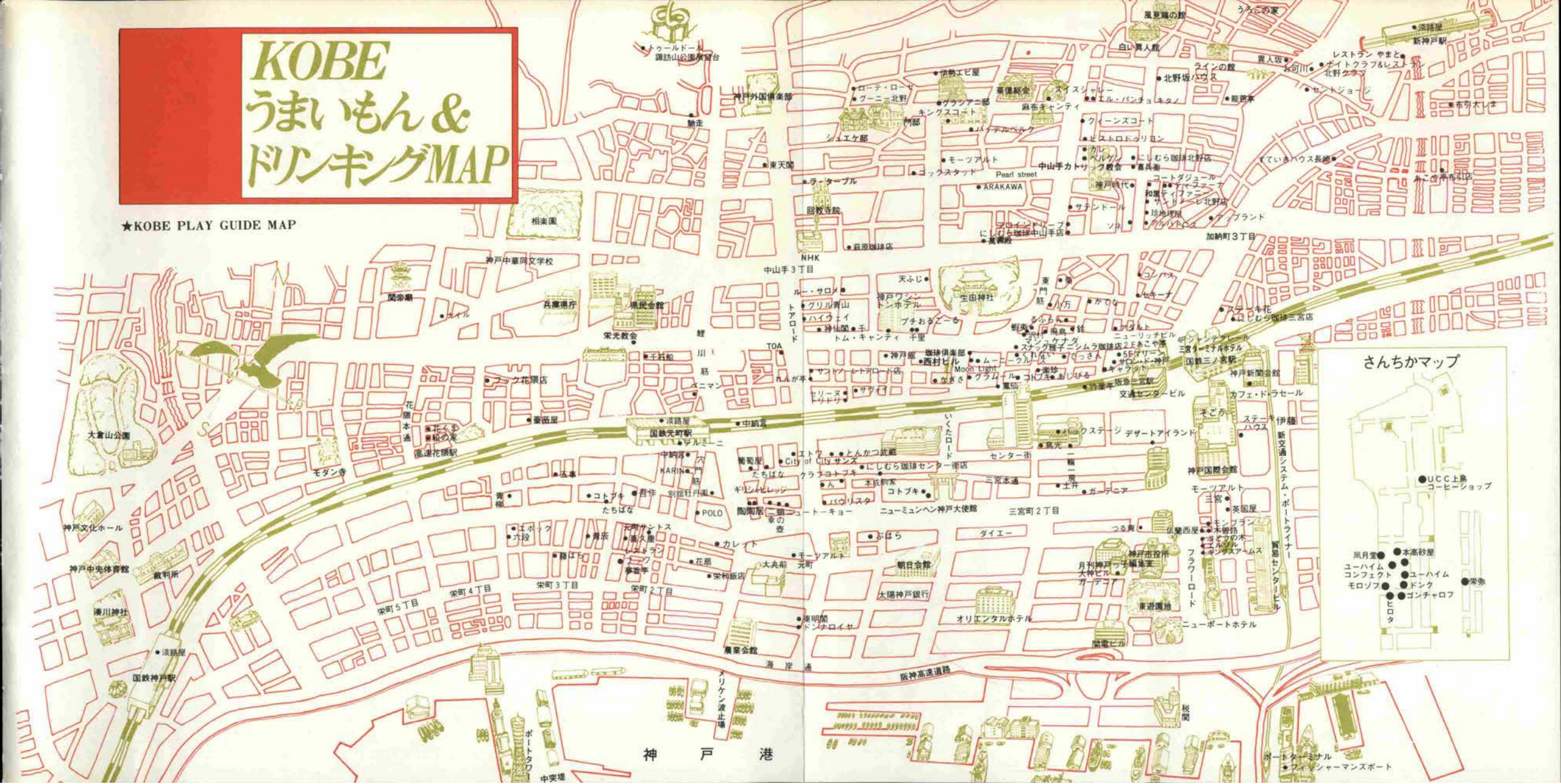
らうんじ 沢村  
中央区中山手通 1-4-10 平和楼ビル3F ☎332-2695

PRAIVATE SALOON コートダジュール  
中央区中山手通 1-22-113 ヒルサイドテラス4F ☎222-7222

会員制調音サロン サロン・ド・神戸  
中央区北長狭通 1-2-13 ニューリッパビル10F ☎331-1547



## ★KOBE PLAY GUIDE MAP







極めたこの味  
しろやかさ

この冬、真心を込めたご贈答を…



五年間守り育てた極上品  
金盃超特級 秘蔵酒  
1.8ℓ ビン詰・木箱入  
〔限定品〕¥10,000



左党に贈る小粋なセット  
一級 1.8ℓ 金箔入り 2本  
生酒原酒「ひとり一本」180ml 2本  
金盃セット K A-5 ¥5,000

灘の清酒  
**金盃**

金盃酒造株式会社

本社／神戸市灘区大石東町6丁目3番1号  
TEL 神戸 078-871-5251 (代表)  
東京支店／東京都中央区新川1丁目14番5号  
TEL 東京 03-553-2601 (代表)

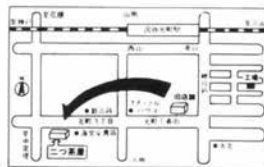
二つ茶屋新製品 「神戸っ子」が  
ハイカラ風味をお届けします



ポテトとパイをミックスさせたハイカラなお菓子。9個入り ¥1,000

港町のケーキグルメにカジュアルスイート！

メロウタイプの自然な甘さが心地よい。パステルな色合いが楽しく、ワイルドなあじわいをパイが引きたてます。  
フレッシュバターとスイートポテトのデュエットは、いま新しいカジュアルスイート。  
港神戸のみなさまにお菓子の二つ茶屋から心をこめてお届けします。



 **二つ茶屋**

本店 中央区元町通3丁目7-9 ☎(331)0755(代)  
岡本店 東灘区岡本1丁目5-5 ダイソービル内 ☎(452)0570  
工場 中央区三宮町3丁目10 ☎(331)0796

記念携



ニューヨーク 五番街



今や世界の三宮センター街



ほんかつ む 花

本店 / 三宮・センター街 ☎321-0634  
11:00AM ~ 7:30PM 水曜休

京町 デート

三宮センター街  
1 F ☎332-2116 2 F・B F ☎331-4598

 Cascade

本部 / 神戸市中央区三宮町2丁目センタープラザ西館5 F  
☎(078)391-1360(代表) 神戸・大阪・西宮・名古屋

*ladies watanabe*

レディスワタナベ・ヴォイスクラブ  
☎078(331)1650 ☎078(331)4306  
AM10:30 ~ PM 7:00

**marudai**

オリジナルボタン/バック/アクセサリー  
本店(三宮センター街)/TEL(391)4146

**ナカサワ 文具センター**

本店 / 神戸市中央区三宮町1-4  
TEL 321-4500

 サファージェル

三宮センター街2丁目 ☎331-4358



CAFÉ POLO

センター街ファミリア南東側毛利ビル2F  
TEL/078(331)8118 11:00AM ~ 8:00PM





SHOPPING

# 秋から冬へ

シックでエレガントなK O B Eの街

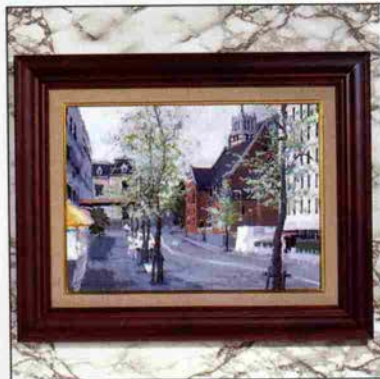


秋たけなわの神戸の街並みにたたずむあなたの胸元に、エキゾチックなブローチを……。

●ベッ甲  
**太田ベッ甲店**  
元町1番街山側 ☎33116195



●手づくりの心をつたえる  
**Cascade**  
阪急岡本店 ☎411-7116  
ずっしりしたライブレッドは翌日の方が味が落ちつきまます。ベーコンと野菜を添えて健康的な朝食を。



●面材・額縁  
**末積製額**  
トアロード・大丸前 ☎3311309  
芸術の秋に相応しい絵と、クラシックな額縁はいかがでしょう。



●洋装店  
**クチユールラ・セーヌ**  
大丸前 ☎331-3654  
街の噂は  
モダンフェミニン



寒い季節です。この冬は、落ち着いた民芸調の雰囲気のなかで、当店の特選神戸肉の鍋物料理をお楽しみ下さい。

※ 2名様から30名様までのご予約を承っております。  
※ 定休日(木曜日)でも貸切りの場合は営業いたします。

## ステーキ房 はっせ 泊瀬川

神戸市中央区三宮町2丁目9-3  
TEL (078) 332-6516  
11:30AM~3:00PM 5:00PM~9:00PM  
木曜日定休  
姉妹店:喫茶イフ お好み焼き「三好」

### 〈メニュー〉

- 神戸肉しゃぶしゃぶ お1人様 4,000円
- 神戸肉すきやき お1人様 4,000円
- 泊瀬定食 1,800円 (11:30AM~2:00PM)  
〈スープ・サラダ・ステーキ・ライス・コーヒー〉
- スターキコース 3,500円~8,000円
- スターキ 4,000円より
- エビフライ定食 3,000円





贈りものに本物を選ぶ。

薫煙に熟成された  
やわらかなハムの旨みが  
熱い鉄板にはじける  
芳ばしい香りがテーブルに漂う

ハム ステーキ



厳選された素材と、  
伝統に培われた手造りの技が  
織りなす、  
味わいのシンフォニー。  
本物だけが持つことを許された、  
味わいの深みと風格に、  
贈る人のこころが込める。  
この冬、贈って、贈られて……  
お付き合ひもまろやかに。

 **伊藤ハム**



牧場から、とびきりクリーミィな新風。

新発売

ゴンチャロフのチーズチョコレート

全く新しい味覚の誕生。

質の良い新鮮な牛乳から作る、特製のクリームチーズを

チョコレート(3種類)でカバーしました。

クリーミィな美味しさの味わい3つ。

(プレーン・アーモンドペースト・アーモンドロック)

\*よく冷やした辛口の白ワインがおすすめです。  
お試しください。



¥2,000 (20個入)

¥500~¥3,000  
までございます。

KOBE  
Goncharoff  
ゴンチャロフ





カップを手にするときは、いつも最高でいたい。マイベストタイムをカレットで…。姉妹店 ミカフェ・ド・ラセル、(新聞会館1F)もご愛顧ください。

サロン デイ  
**Carette**

神戸市中央区元町通1丁目元町一番街  
☎ (078) 321-1739



鉄板焼コーナーではしもふりの神戸ビーフを。ワインを飲みながら、ゆっくりと味わってください。

出張パーティも承ります

RESTAURANT  
**やまと**

新神戸駅前そごうマークのビル2F  
AM11:00~PM9:00 ☎ 242-2020(代)



日本海特産の松葉がにが、11月6日解禁!なくてはならない冬の味覚、生のかにすきを存分にご賞味下さい。

政府登録国際観光旅館

**ホテル全但**

〒650 神戸市中央区下山手通4-5-1〔全但会館〕  
市営地下鉄山手(県庁前)駅下車東出口2番1分  
電話神戸078(391)3838(代)



自然食バーラー ミサントマトは、自然食ファンには見逃がせない魅力です。ベジタリアン¥900

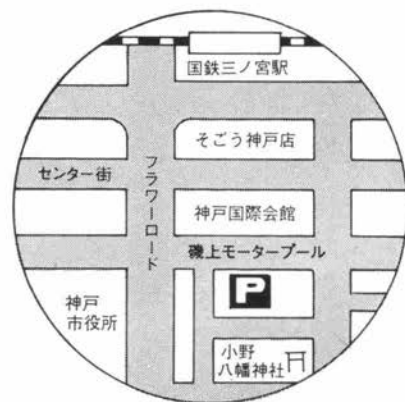


より自然なもののふれあい  
**Natural House**  
ナチュラルハウス 神戸店

中央区元町通 2-7-7  
10:00AM~8:00PM ☎ 392-3661

TASTE OF KOBE

ビジネスに!  
ショッピングに!  
ご利用ください



## 磯上モータープール

● 収容台数 350台  
● 月極駐車可  
● 年中無休  
(神戸国際会館前) TEL (078) 251-2662 (8:00A.M.~11:00P.M.)